

エプソン販売

SurePress内覧会

1月27日(木)、28日(金)新宿で

エプソン販売(株) (東京都新宿区西新宿、☎ 03・5321・9882) は27日(木)、28日(金)の2日間、午前9時から午後5時までベルサール西新宿で「SurePress L-4033A 特別内覧会」を開催する。

今回の内覧会は、昨年発売された「SurePress」の稼働状況やワークフロー、同機によって生産可能なラベルなどを多くのラベルコンバーターに実際に見て知ってもらい、同機によって新たに実現可能なラベル製造を模索する場として構築された。

イベントの柱は、セミナーと実演で構成されており、セミナーは、両日午後1時から3時30分まで1時間ずつ2セッションを展開(セッション間に30分の休憩時間あり)。一方、実演では、プリプレス、プレス、ポストプレスのトータルワークフローが提案される。

セミナーでは、すでにデジタル印刷機を導入し、さまざまな活用方法で成功しているラベルコンバーター3社が講演。初日午後2時30分からは、(株)アイジェット代表取締役社長の久米原勝氏が「儲かるデジタル活用術」を、2日目午後1時からは、永井印刷機代表取締役社長の永井謙太良氏が「デジタル印刷機で新しいマーケットを作ろう」をテーマに、デジタル印刷機を導入して得られるメリットやデジタル印刷機ならではの活用術などを解説する。

また、デジタル印刷には欠かせないデータ制作のノウハウについては、2日目午後2時30分から、MSP(株)代表取締役社長の小宮山覚司氏ならびに、同社とのコラボレーションで実際にデータ制作を担当している(株)フナミズ刃型製版代表取締役社長の木原一裕氏が、「デジタル印刷機用データはこう作る」をテーマに、具体的な作業方法などを紹介。なお、初日午後1時からラベル新聞社の鈴木由紀子ゼネラルマネージャーが「2年後のラベル業界デジタルマップ」をテーマに講演する。各セミナーともに定員は50名でFAXまたは電話での事前登録が必要。

一方、会期中に常時展開されるのが各種実機の実演会。同社では、デジタル印刷をビジネスとして成功させるために、印刷機だけではなく、プリプレスからポストプレスまでのトータルソリューションを提案している。会場では、各パートをどのように運用していくのかデモンストレーションされる。プリプレスでは、カンパ制作などでSurePressの出力と同等の再現性を可能にする「MAXART PX-H8000」が、また、ポストプレスでは、デジタル印刷機の柔軟な生産力を実現するために、なくてはならない抜き加工機として、アレンデータグラフィックスシステムズのカッティングプロッタ「セントラ」を出品し、一連の工程を通して行う実演などが展開される。

なお、同社では、ラベルコンバーターが日々手をつけている仕事をどの程度 SurePress で再現できるのか、また、現在、アイデアとして上がっているデジタル印刷でやってみたい仕事やどの程度具現化できるのかなどについて、個別にテストしてもらおう場も構築。24日(木)までに内覧会専用ダイヤル(☎ 03・5321・9733)に申し込みすることで、個別出力デモンストレーションに対応する。申し込み多数の場合は先着受付順で、当日の受付は対応不可。

同社では、「ぜひ多くのラベル印刷会社の方々に来場いただき、SurePressの可能性を体験して新たなビジネスモデルを発見していただければ」と話している。

会場では、プリプレス、プレス、ポストプレスのトータルソリューションを提案する

また、デジタル印刷には欠かせないデータ制作のノウハウについては、2日目午後2時30分から、MSP(株)代表取締役社長の小宮山覚司氏ならびに、同社とのコラボレーションで実際にデータ制作を担当している(株)フナミズ刃型製版代表取締役社長の木原一裕氏が、「デジタル印刷機用データはこう作る」をテーマに、具体的な作業方法などを紹介。なお、初日午後1時からラベル新聞社の鈴木由紀子ゼネラルマネージャーが「2年後のラベル業界デジタルマップ」をテーマに講演する。各セミナーともに定員は50名でFAXまたは電話での事前登録が必要。

一方、会期中に常時展開されるのが各種実機の実演会。同社では、デジタル印刷をビジネスとして成功させるために、印刷機だけではなく、プリプレスからポストプレスまでのトータルソリューションを提案している。会場では、各パートをどのように運用していくのかデモンストレーションされる。プリプレスでは、カンパ制作などでSurePressの出力と同等の再現性を可能にする「MAXART PX-H8000」が、また、ポストプレスでは、デジタル印刷機の柔軟な生産力を実現するために、なくてはならない抜き加工機として、アレンデータグラフィックスシステムズのカッティングプロッタ「セントラ」を出品し、一連の工程を通して行う実演などが展開される。

なお、同社では、ラベルコンバーターが日々手をつけている仕事をどの程度 SurePress で再現できるのか、また、現在、アイデアとして上がっているデジタル印刷でやってみたい仕事やどの程度具現化できるのかなどについて、個別にテストしてもらおう場も構築。24日(木)までに内覧会専用ダイヤル(☎ 03・5321・9733)に申し込みすることで、個別出力デモンストレーションに対応する。申し込み多数の場合は先着受付順で、当日の受付は対応不可。

同社では、「ぜひ多くのラベル印刷会社の方々に来場いただき、SurePressの可能性を体験して新たなビジネスモデルを発見していただければ」と話している。

会場では、プリプレス、プレス、ポストプレスのトータルソリューションを提案する

また、デジタル印刷には欠かせないデータ制作のノウハウについては、2日目午後2時30分から、MSP(株)代表取締役社長の小宮山覚司氏ならびに、同社とのコラボレーションで実際にデータ制作を担当している(株)フナミズ刃型製版代表取締役社長の木原一裕氏が、「デジタル印刷機用データはこう作る」をテーマに、具体的な作業方法などを紹介。なお、初日午後1時からラベル新聞社の鈴木由紀子ゼネラルマネージャーが「2年後のラベル業界デジタルマップ」をテーマに講演する。各セミナーともに定員は50名でFAXまたは電話での事前登録が必要。

一方、会期中に常時展開されるのが各種実機の実演会。同社では、デジタル印刷をビジネスとして成功させるために、印刷機だけではなく、プリプレスからポストプレスまでのトータルソリューションを提案している。会場では、各パートをどのように運用していくのかデモンストレーションされる。プリプレスでは、カンパ制作などでSurePressの出力と同等の再現性を可能にする「MAXART PX-H8000」が、また、ポストプレスでは、デジタル印刷機の柔軟な生産力を実現するために、なくてはならない抜き加工機として、アレンデータグラフィックスシステムズのカッティングプロッタ「セントラ」を出品し、一連の工程を通して行う実演などが展開される。

なお、同社では、ラベルコンバーターが日々手をつけている仕事をどの程度 SurePress で再現できるのか、また、現在、アイデアとして上がっているデジタル印刷でやってみたい仕事やどの程度具現化できるのかなどについて、個別にテストしてもらおう場も構築。24日(木)までに内覧会専用ダイヤル(☎ 03・5321・9733)に申し込みすることで、個別出力デモンストレーションに対応する。申し込み多数の場合は先着受付順で、当日の受付は対応不可。

同社では、「ぜひ多くのラベル印刷会社の方々に来場いただき、SurePressの可能性を体験して新たなビジネスモデルを発見していただければ」と話している。

会場では、プリプレス、プレス、ポストプレスのトータルソリューションを提案する

また、デジタル印刷には欠かせないデータ制作のノウハウについては、2日目午後2時30分から、MSP(株)代表取締役社長の小宮山覚司氏ならびに、同社とのコラボレーションで実際にデータ制作を担当している(株)フナミズ刃型製版代表取締役社長の木原一裕氏が、「デジタル印刷機用データはこう作る」をテーマに、具体的な作業方法などを紹介。なお、初日午後1時からラベル新聞社の鈴木由紀子ゼネラルマネージャーが「2年後のラベル業界デジタルマップ」をテーマに講演する。各セミナーともに定員は50名でFAXまたは電話での事前登録が必要。

一方、会期中に常時展開されるのが各種実機の実演会。同社では、デジタル印刷をビジネスとして成功させるために、印刷機だけではなく、プリプレスからポストプレスまでのトータルソリューションを提案している。会場では、各パートをどのように運用していくのかデモンストレーションされる。プリプレスでは、カンパ制作などでSurePressの出力と同等の再現性を可能にする「MAXART PX-H8000」が、また、ポストプレスでは、デジタル印刷機の柔軟な生産力を実現するために、なくてはならない抜き加工機として、アレンデータグラフィックスシステムズのカッティングプロッタ「セントラ」を出品し、一連の工程を通して行う実演などが展開される。

なお、同社では、ラベルコンバーターが日々手をつけている仕事をどの程度 SurePress で再現できるのか、また、現在、アイデアとして上がっているデジタル印刷でやってみたい仕事やどの程度具現化できるのかなどについて、個別にテストしてもらおう場も構築。24日(木)までに内覧会専用ダイヤル(☎ 03・5321・9733)に申し込みすることで、個別出力デモンストレーションに対応する。申し込み多数の場合は先着受付順で、当日の受付は対応不可。

同社では、「ぜひ多くのラベル印刷会社の方々に来場いただき、SurePressの可能性を体験して新たなビジネスモデルを発見していただければ」と話している。

会場では、プリプレス、プレス、ポストプレスのトータルソリューションを提案する

また、デジタル印刷には欠かせないデータ制作のノウハウについては、2日目午後2時30分から、MSP(株)代表取締役社長の小宮山覚司氏ならびに、同社とのコラボレーションで実際にデータ制作を担当している(株)フナミズ刃型製版代表取締役社長の木原一裕氏が、「デジタル印刷機用データはこう作る」をテーマに、具体的な作業方法などを紹介。なお、初日午後1時からラベル新聞社の鈴木由紀子ゼネラルマネージャーが「2年後のラベル業界デジタルマップ」をテーマに講演する。各セミナーともに定員は50名でFAXまたは電話での事前登録が必要。

一方、会期中に常時展開されるのが各種実機の実演会。同社では、デジタル印刷をビジネスとして成功させるために、印刷機だけではなく、プリプレスからポストプレスまでのトータルソリューションを提案している。会場では、各パートをどのように運用していくのかデモンストレーションされる。プリプレスでは、カンパ制作などでSurePressの出力と同等の再現性を可能にする「MAXART PX-H8000」が、また、ポストプレスでは、デジタル印刷機の柔軟な生産力を実現するために、なくてはならない抜き加工機として、アレンデータグラフィックスシステムズのカッティングプロッタ「セントラ」を出品し、一連の工程を通して行う実演などが展開される。

株式会社精工 (大阪市北区西天満)

「デジタル印刷機は独自路線拓く戦略機 差別化を図る手段」

エプソンのインクジェット(IJ) デジタルラベル印刷機「SurePress L-4033A」が、市場へ着実な浸透を見せている。昨秋の発売開始直後、いち早く導入を決定したのが、農産物包装資材専門商社の(株)精工(林健男社長、☎ 06・6360・6531)だ。同社は一挙に2台を設備して、外注案件の大幅な内製化を図るほか、農産物用の包装用フィルムに貼付する同規格品ラベルの販売を開始する。デジタル印刷機を駆使して市場の変化に積極姿勢で挑む、同社の戦略を追った。(上田)



デジタル印刷事業を統轄する林正規常務

■精工の歴史

1911年に創業した精工は、当初株券などのフォーム印刷を手がけていた。戦後になると農産物の包装資材商社に姿を換え、20年前には農産物用の包装資材メーカーに転身。現在は「フィルム2次加工メーカー」「農産物包装資材専門商社」「デジタル印刷」の3部門を軸とした事業を展開する。

全国に7営業所のほか、茨城と宮城、高知に工場を構える同社。このうち、宮城工場・未来館にHPインディゴ「ws」シリーズ3台やレーザーダイカッター2台を設備して、シール・ラベル印刷のデジタルソリューションを構築する。

■ラベル印刷に参入

約10年前、精工はシール・ラベルのデジタル印刷事業に参入した。

林正規常務は「当社事業の一つであるパッケージ試作の市場は、年間で繁



量産初号機、2号機の導入とあって、メーカーとの調整も緊密に行われている

忙と閑散の“波”が存在する。その波を埋め、かつデジタル印刷機の稼働率の向上という狙いもあってラベル事業に着目した。いざふたを開けてみると、ラベル印刷という大きな市場があった」と振り返る。

ラベル印刷事業を開始するに際して、エプソンのインクジェット印刷機「PL-1000」を導入。農作物の生産者のトレーサビリティシールのほか保険会社のセールスレディーのシール印刷がヒットし、1号機導入から半年後には、同機を複数台追加導入した。

農産物の包装資材専門商社という立場から、ラベルを包装資材の1つとして取り扱ってきた同社。こうした背景も手伝い、ラベルの供給に加えてラベラーの販売やラベリングサービスも同時に提供可能としたことで、利便性が評価された。こうして価格以外の部分でもユーザーの支持を獲得している。

林常務は「これまで価格だけで他社に流れていた案件も、包装資材、ラベル、ラベリングとトータルで当社に任せてもらえるなど、手堅く事業を展開できている。“箱を開けると、そこに全部そろっている”という、ワンストップショッピングのイメージ」と現状を分析する。

■導入の背景と評価

デジタル印刷事業の拡大と比例し

独自路線拓く戦略機

用するケースが多く、2台導入したことで80%の内製化を実現できる」と(林常務)と試算する。

現在同社では、独自の自動面付けソフトで無駄なく効率的な印刷を行うほか、自社専用の原価計算ソフトを所有。プルダウン方式で条件を選択すると枚数単価が算出されるもので、営業担当は客先のその場で見積もりが出来る。こうして単に印刷の内製化を図っただけではなく、小ロット受注への積極対応や、利益確保、受注機会の確保など総合的な効率化を目指している。

同社は輪転機で大ロット印刷を行うタイプの企業とは異なり、デジタル印刷機の長所を生かして豊富な種類をそろえ、ユーザーが必要な量を必要ときに短納期で提供する、というタイプの企業だ。

林常務は「オンデマンドの簡便性、即応性を生かした事業を確立することで、相手に『スピード感がある』『機動力が高い』『小回りが利く』という企業イメージを印象づける。結果的に、精工の企業価値を押し上げる副次的効果があるのではないかと推測する。これは同時に、お客さまの評価獲得にも結びついていく」といった有機的な連鎖にも期待していると語る。

■今後の市場戦略

今後の市場動向について「農作物の資材メーカーの視点から、シール・ラベルのニーズは小ロットか大ロットかで二極化が進むのでは」と林常務は予測する。

核家族化の進展や若年層の晩婚化、



宮城工場(宮城県加美町)内に立つデジタルファクトリー「未来館」

高齢者の単独世帯の増加といった社会的要因のほか、昨年来の天候不良による野菜の値段高騰といった外的要因もあわせて、生鮮食品の店頭での販売形態はより細分化が進むことは明白だ。

グーリア印刷も行う同社は、こうした兆候にいち早く反応。昨年、野菜袋185種類を規格化し、そこから選択できるような小ロット化への対応策を講じた。同様に、農産物の包装用フィルムに貼付するラベルの規格化を急いでおり、今春をめどに3000種類を目標としたデザインカタログを編さん予定だ。

林常務はデジタル印刷機の有効性についてこう語る。「鍵となるのは、デジタル印刷機を生かす明確な戦略と、攻めの姿勢を持っているのかということ。よく、スキルレスなデジタル印刷機では印刷品



SurePressでは規格品に初挑戦

質が均一化して他社との差別化が難しいのでは、という声を耳にする。当社はラベル印刷会社ではないので何とも言えないが、当社にとってはその逆。デジタル印刷機は差別化を図るための手段だ。単に入稿されたデータの出力がデジタル印刷機の役割となるようなら、SurePressはもとより、他のデジタル印刷機は必要ないだろう」

今年2月に設立100年を迎える精工。今後は、包装資材商社の観点から、包装材料メーカーや生産者などを対象としたラベルのオンデマンド供給事業を確立して、在庫圧縮に貢献するシステム構築を推進する方針だ。

結びに林氏は、「今回 SurePress という101年目の門出にふさわしい新たな戦略機を設備したことで、また新たな一歩を踏み出せるのかな、という期待に胸を膨らませている。あとはそれが数字になって表れてくるはずなので、そこをご期待いただければ」と意気込みを語った。

ラベル印刷を変える。
エプソン、内覧会を開催。

EXCEED YOUR VISION

Inkjet Digital Label Press

SurePress L-4033A

SurePress L-4033A 内覧会開催	
日程	2011年1月27日(木)～1月28日(金) 9:00～17:00
場所	ベルサール西新宿 東京都新宿区西新宿4-15-3住友不動産西新宿ビル3号館1F
出展内容	SurePress L-4033A PX-H8000 デジタル後加工機CENTRA
セミナー	27日:2年後のラベル業界デジタルマップ(Drupal)におけるラベル新聞社 ゼネラルマネージャー 鈴木 由紀子氏 儲かるデジタル活用術 株式会社アイジェット 代表取締役社長 久米原 勝氏 28日:デジタル印刷機用データはこう作る MSP株式会社 常務取締役 小宮山 覚司氏 株式会社フナミズ刃型製版 代表取締役社長 木原 一裕氏 デジタル印刷機で新しいマーケットを作ろう 永井印刷株式会社 代表取締役社長 永井 謙太良氏
個別デモンストレーション	事前に受け付けたデータをシュアプレスで出力いたします
※セミナー、個別デモンストレーションには定員がございます。詳細はシュアプレス専用ダイヤルもしくはWEBサイトをご覧ください。 http://www.epson.jp/ec/event/surepress/	

シュアプレスのホームページ

<http://surepress.jp>

製品、内覧会についてのお問い合わせは

☎ 03-5321-9733

エプソン販売株式会社 特販企画推進部 シュアプレス専用ダイヤルまで

【受付】9:00～17:30月～金曜日
【時間】(祝日・弊社指定休日を除く)

*この広告に記載の仕様、デザインは技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

エプソン販売株式会社 セイコーエプソン株式会社